

## 荒木寛二作「空手にかけた青春」

<前編「二つの顔」>

まゆみの母　　まゆみ！ 早く起きなさい。会社に遅れてしまいますよ！ 朝ぐらいきちんと食べていかないと、体を悪くしてしまうわよ。

横山まゆみ　　もう少し寝かせといて。体がだるくてしょうがないの。

母　　　　　　このところ、夜も遅すぎますよ。いくら若いからと言って、ムチャしちゃダメよ。今日は空手道場のほうは休んで、早めに帰りなさいね。

まゆみナレーション　わたしは横山まゆみと申します。4人兄弟の末っ子として伸び伸び育ってきたわたしは、はた目には何不自由のない、幸せな若者に映っていました。しかし、わたしの家は、父を中学生の時に失い、それ以来、母が外で働きながら、女手ひとつで頑張ってきました。そんな母の努力にもかかわらず、親のいない家の中で、自分勝手に生活していたわたしたち兄弟4人は、言い争いが絶えず、それぞれバラバラな方向に進んでいきました。

私自身の心の中にも、少しも構ってくれない兄弟たちへの、自分でどうすることもできない憎しみや、いら立ちが折り重なっていました。この思いは徐々に大きくなり、どうしてこんな家庭に生まれたんだろうと、わたしの心は次第に荒れずさんでいきました。家庭の中での自分が嫌でたまりませんでしたから、せめて外では必要とされる人間でありたいと思い、職場でも、そのための努力であればいいと思いませんでした。

佐々木　　　　横山さん。疲れているみたいね。なんだか頼みにくくなっちゃった。

まゆみ　　　　何よ。遠慮しなくていいわよ。結構これでタフなんだから。まだまだスタミナばっちりよ。

佐々木　　　　“24時間、戦えますか”ってところね。じゃ悪いけど頼もうかな。実はね、弟が入院しちゃったのよ。よく原因が分からないんだけど、肝臓が悪いらしいの。勝手に遊び回って、不摂生しているからだ、わたしは思っているんだけどね。それにまた母親ときたら、家を出ちゃってるのよ。あーあ、今の若者は無責任かも知れないけど、親たちも結構無責任だよな。

まゆみ　　　　それで、わたしに何を頼みたいの？

佐々木　　　　うん。そういうわけで、わたしが母親代わりに、お見舞いというか、看護というか、まあ病院に行かなければならないわけよ。そこで、まだ残ってる仕事、頼める？

まゆみ　　　　いいわよ。ばっちりやっとかから。弟さん、お大事にね。“兄弟仲よく”が第一よ。こんなとき、しっかりと面倒見とかないと、あとあと恨まれるわよ。

佐々木 ありがとう。お言葉に甘えてお願いします。じゃ、よろしく。

まゆみ 任しといて。(モノローグ)あーあ、今日も遅くなりそうだ。仕事仕事か。

ナレーション わたしは、友人を大切に、職場にあっては役に立つ人間でいようと、いろいろ心を配りました。でもひとたび家に帰れば、わたしは元の醜い顔に戻っていました。その二つの顔のうち、自分でもどちらが本当の顔なのか、分からなくなってきました。このままでは、わたしはダメになってしまう。なんとかしなければいけないと焦りました。“何か自分を律するものがほしい”。そんな思いが強まってきていました。そんなときのよき話し相手は、兄弟の中で唯一の見方であった、もう結婚している姉でした。その時も、わたしはこの姉を訪ねました。

姉 まゆみ。お母さんの体の調子、どうなの？ 血圧が高いし、あまり動き回ると、よくないと思うんだけど。世話好きだからね。

まゆみ 友達も多いし、相変わらず忙しくしているわよ。でもあれが母さんの生きがいだからね…。

姉 ところで、仕事忙しそうだけど、まゆみもそろそろ結婚考えないとね。慎重なものいいけど、思い切って決断しなけりゃダメよ。いろいろ考え出したら迷うだけだから。わたしも心にかけておくから。

まゆみ うん。どうも今ひとつ気が乗らないのよね。そんなにえり好みしているつもりはないんだけど…。自信持ちたいのよ。結婚に限らず、これだという確信があればいいと思うの。お姉ちゃんはパツパツと動けるけど、わたしはそれほどでもないのよ。

姉 わたしだって、まゆみが思っているほど、物事割り切れるわけではないの。迷うことだってたくさんあるわよ。家庭を築くってこと、簡単じゃないものね。

ナレーション わたしは、日がたつに連れ、ますます、自分を律し強くするものを求める気持ちが強まってきました。わたしは、思い切って空手の道場に通い始めました。その中に、自分を訓練し強くするものがあるのではないかと思ったのです。厳しい練習に身も心も縛り付けてゆくことで、わたしは本当の自分を確かめようとしていました。そんなある日の道場でのことでした。

(効果音) (道場の練習の様子。掛け声など)

仲間A 横山はめきめき力をつけてきたねえ。もちろん熱心さもあるけど、集中力が強いんだと思う。おれも、うかうかしておれないや。

仲間B そういってお前こそ、力をつけてきたよ。自分じゃ分からないかもしれないけど、型も以前に比べて鋭くなってきたしな。

まゆみ あー、でも疲れた。今日はどうも思うように体が動かないの。体の切れがいまいち悪いな。ところで今度の大会、うちの道場の人たち、入賞しそう？

仲間A そう言うお前が、今度は有望じゃないの？ ひそかにねらっているんだろう。一段と練習に熱が入っているようだし。

まゆみ  
仲間B わたしなんかまだまだよ。アメリカから来ているナンシーは、有望じゃないの？  
いまいちのところかな。型が決まったときは迫力あるけど、全体の流れがまだぎこちないんだよね。

先輩C 横山！ 練習が終わったらみんなで食事をしに行かないか？ 今度の大会の打ち合わせもあるし。

仲間A 今日もまた遅くなるようだ。おれも、これで結構気を遣う仕事だから、遅くなるのはきついんだよな。でも試合で勝ったときの気持ち、なんとも言えないもんね。横山！ 今度はお前が期待されているんだから、頑張ろうぜ。

ナレーション 初めのころは、空手に少しも楽しみなどは感じなかったわたしでしたが、こうした練習のかいあってか、流派内の大会にも出るようになり、やがて入賞も経験するようになってゆきました。

仲間B 横山！ ついに銀じゃないか。おれははっきり金だと思っていたよ。型の決まり方なんか、迫力あって、息をのむようだった。残念だったろう。

まゆみ そんなことないわ。銀だってわたし驚いてるんだもの。これでもわたし精一杯よ。久しぶりに食事に行こうか。祝杯上げよ！

先輩C おっ、いい話のようだな。おれも仲間に入れてくれよ。我が道場のホープのお祝いだものな。

ナレーション 入賞を何度か経験するうちに、いつしかわたしは、栄誉や人からの賞賛に心の充実感を覚えるようになってゆきました。人々の賞賛は、今まで味わったことのない満足感を与えてくれ、家庭での嫌な思いを忘れさせてくれました。

仲間A 今度の世界大会、ドイツのデュッセルドルフだってさ。おれ、頑張っって出場資格を取るつもりだ。お互いに頑張ろう。

仲間B 確か3位入賞者までが出場できるんだったな。うかうかしてると、おれ、置いてきぼりになっちゃう。さ、練習練習！

(効果音) (道場の練習風景)

ナレーション わたしも、みんなに負けずに一段と厳しい練習を始めました。仕事で残業した上に、週に4日も道場へ通い、深夜帰宅という、何かに取り付かれたような生活を続けました。

母 まゆみ！ もう起きないと会社に遅れるよ。夕べも12時を回っていたけど、体のほうは大丈夫かい？

まゆみ 大丈夫よ。もうひと踏ん張りでドイツ行きだもん。頑張らなくちゃ。さて起きよ。

ナレーション わたしは疲れていましたが、無理やりに起き出し、食事も早々に会社に出かけました。そしてその日も、一日の仕事のあと、道場で汗を流し、深夜の帰宅となりました。ところがその夜、床に就いたわたしは、なんとも言えない体のほてりと疲れで、なかなか寝つかれず、気がつくとき汗をびっしょりかいているのでした。

まゆみモノローグ どうしたんだろう。いつもの疲れと違う…。

ナレーション 翌朝、わたしはなかなか起き上がることができませんでした。

母 まゆみ。どうしたの、そんなにはれぼったい顔して？ あ、熱があるようよ。気分悪いの？

まゆみ 体がだるくて、寝汗をかいたみたい。風邪かなあ。今日は、会社休まなければいけないかも…。

ナレーション 母の勧めもあり、わたしは病院に行き、診察を受けました。そこでひととおり診察したあと、風邪だけではないようなので、専門の病院を紹介され、そこで改めて診察を受けました。

医師 精密検査をしましたが、横山さん、バセドー氏病です。治療には2、3年はかかります。運動は控えめにしてください。今、あなたの体は、いつでも、そう、寝てるときでも運動しているような状態にあるんですよ。この状態で運動を続けたら、到底体は持ちません。

まゆみモノローグ バセドー氏病？ 治療に2、3年？

ナレーション 医者言葉は、わたしの頭を一撃したように、体の中に響き渡りました。

まゆみモノローグ もうドイツへ行けない！ そのために、あれほど打ち込んできたのに。わたし、一体何をしてきたんだろう。もうなんにもできないじゃない。どうしたらいいんだろう！（多重エコー）

ナレーション わたしは目の前が真っ暗になり、そのまま深いやみの底へ真っ逆様に落ちてゆくようでした。

< 後編「脱出の道」 >

姉 まゆみ。今度ね、教会で国際飢餓対策機構という団体の神田先生という方が来て、話して下さるの。よかったら来てみない？

ナレーション そう誘ってくれたのは姉でした。わたしは無理がたたって病気になる、空手のほうは全くできず、むなしい日々を過ごしていました。数か月前にクリスチャンになっていた姉は、わたしの落ち込んでいる様子を知り、心配してひそかにわたしのために祈っていてくれたのでした。わたしは誘われるまま、なんとなくその集会に出てみました。

神田先生 これは、カオイダンという難民キャンプでのことです。病人テントの中に、一人の子供がいました。全くの独りぼっち。ひと言も口にせず、空を見つめたままです。衰弱し切った体は、熱帯性の病気を幾つも持っていた。医師もさじを投げた。薬も流動食もなんにも受け付けず、ただ死を待っていました。

ピーターと呼ばれるアメリカ人青年がボランティアで、その子のテントで働いていました。この、その子を抱いて座った。その子のほおをなで、口づけし、耳元で子守歌を歌い、2日2晩、全身を蚊で刺されながら、動かずに子を抱き続け

ました。3 日目になって、あることが起こりました。ピーターの目をじっと見ていたその子が、かすかに笑ったのです！ “自分を愛してくれる人がいた。自分を大事に思ってくれる人がいた。”その意識が、無表情で石のごとく閉ざされていたその子の顔と心を開かせたのです。

ピーターは泣いた。喜びと感謝のあまりに、泣きつつ勇気づけられて、食事と薬をその子の口に持っていった。子供は食べた！ 絶望が希望に取って代わられた時、何日ぶりかでその子は食べ物をのみ込んだのです。

皆さん、あの人々が求めているのは、単に食料や薬ではない。人間を本当に救うのは“愛”です。“愛”こそが最上の薬なのです。食べ物なのです。

まゆみモノローグ “愛”か…。わたしは自分に絶望してる。そんなわたしが、自分自身を愛することができるだろうか。それに私は、血を分けた兄弟を愛することもできないで、かえって憎んでさえいる。一度は結婚を考えるほど人を愛したこともあったけど、あれは愛だったのだろうか。わたしには愛があるのだろうか。本当の愛ってなんだろう？

ナレーション わたしの頭の中で、一方では“愛”のすばらしさに心が震えるほど感動しながら、一方では、とてもピーターのように人を愛せない自らの醜い心を知らされて、わたしは絶望してしまうのです。

まゆみモノローグ 力が…。わたしを変えてくれる力が欲しい…。

ナレーション そんな時でした。

母 まゆみ。一緒に礼拝に出てみない？

ナレーション それは母でした。母は長い間、生長の家の集会に通っていたのですが、そのこと、姉に紹介され、近くの教会の礼拝に出席し始めていたのです。

母 礼拝に出ると、本当に心が休まるよ。若い人もいるから、話もできるしさ。今度の日曜日、行こうよ。

まゆみ うん。何もなかったらね。

(音楽) (賛美歌 BGM)

ナレーション こうしてわたしは、次の日曜日、母の通う教会に行きました。それ以来、わたしは続けて礼拝に出席するようになり、分からないなりに、説教にも耳を傾けるようになりました。そんなある晩、わたしは聖書を開いて読んでいました。それは旧約聖書の詩篇 119 篇でした。

聖書朗読 もし、あなたのみ教えが、私の喜びでなかったなら、私は自分の悩みの中で滅んでいでしょう。私はあなたの戒めを決して忘れません。それによってあなたは私を生かしてくださったからです。私はあなたのもの。どうか私をお救いください。私はあなたの戒めを、求めています。

まゆみモノローグ 主の戒め…。私を生かしくださる神のみ言葉…。

ナレーション わたしの慕い求めていたものは、これなのだと思われたようで、涙が止まりま

せんでした。それでもわたしは、どうしたら心に平安を得ることができるのか分からずにいました。毎日聖書を開くのですが、理解できず、手引き書の助けを借りれば、頭では分かったつもりでも、何か心に響いてこないのです。しかし、やがて答えが与えられました。それは、ある日曜日の伝道礼拝での、荒木先生の説教を通してでした。

荒木牧師

「あなた方の会った試練は、皆人の知らないようなものではありません。神は真実な方ですから、あなた方を耐えることのできないような試練に合わせるようなことはなさいません。むしろ耐えることのできるように、試練とともに、脱出の道を備えてくださいます。」

これは、神様の約束の言葉です。“脱出の道”とはなんでしょうか。それは、わたしたちの主イエス・キリストです。そうです。わたしたちに対するイエス様の愛こそ、わたしたちのどのような試練からも救い出してくださることができます。イエス様は、その十字架上の最期の瞬間まで、「父よ、彼らをお赦しください。彼らは何をしているか分からないのです。」と、神にとりなしてくださいました。イエス様ご自身こそ、その愛こそ、“脱出の道”です。あなたも今、この愛を受け入れませんか？

(音楽)

(賛美歌「いさおなき我を」)

まゆみモノローグ

イエス様、信じます。わたしは長い間、自分の血を分けた兄弟を憎んでいました。そしてその自分をも赦すことができなかった。そんな自分に打ち勝ちたくて空手を始めたのに、今度は病気になって、もう自分でどうすればいいのかわからなくなった。でも、そんな自分中心のわたしを愛して、イエス様は身代わりに死んでくださったのですね。主よ、あなたこそわたしの“脱出の道”でした。救いでした。感謝します。わたしの罪をお赦しください。アーメン。

ナレーション

こうしてわたしは、あのピーターに抱かれた子供のように、再び生きることを始めました。そして、やっと自分自身をありのまま受け入れることができるようになりました。

教会員 A

横山さん、おめでとうございます。よかったですね。こんなに早く信じてきて、本当によかった。

まゆみ

ありがとうございます。教会のこと、まだよく分からないですが、早く皆さんのようになりたいです。クリスマスに、バプテスマを受けさせてもらうつもりです。よろしく。

教会員 B

真由美さんがお母さんに誘われてきて、先にバプテスマを受けられると、お母さん、焦っちゃうかもしれないわね。だけど、人それぞれに神様のお導きがあるのだから、大丈夫よね。

ナレーション

それは 1985 年のことでした。血のにじむような空手の練習。発病と挫折。苦しみの中からの神との出会い…。本当にあらしのような一年でしたが、わたしは

その年の12月末、バプテスマを受け、神様にある平安のうちに、新しい年を迎えることができました。生きてゆくうえで、自分の力はどうしようもないほど小さいことを知り、またそれを神様におゆだねすることも教えられました。そんなわたしに、神様は教会の中で、神様のための働きのかたまりを備えてくださいました。

教会員 A

横山さん。君、子供好き？

まゆみ

ええ、大好きよ。どうしてそんなこと聞くの？

教会員 A

実はね、今、教会学校の先生をしてくれそうな人を探しているんだ。朝 9 時から、毎週子供の礼拝を守っているんだ。子供たちって、本当にかわいいよ。

まゆみ

聖書のこと、よく分からないんだけど、大丈夫？

教会員 A

最初はね、助手というか、一緒に子供たちといて、出席を表につけたり、聖書を開いてあげたりでいいんだよ。お話は、ほかの先生たちがするから。

まゆみ

わたし、今、体の調子があまりよくないから、できるかどうか分からないわ。

教会員 A

今すぐに決めなくてもいいから、少し考えて、お祈りしてみて。きっと横山さんならできると思うよ。

ナレーション

不安もありましたが、わたしは引き受けて、子供たちと一緒に礼拝を持ち始めました。このことはわたしの信仰の励ましにもなり、大きな恵みとなりました。そんなわたしに、何よりもうれしい出来事が待っていました。

母

まゆみ。わたしもイエス様を信じて、バプテスマを受ける決心をしたわ。

まゆみ

本当？ わあ、よかったあ！

母

亡くなったお父さんのことや、ご先祖様のこともあるけど、みんな神様にお任せするよ。そう決心したら、本当にすっきりした。なんか安心しちゃった。まゆみのことも、神様にお任せするのが何よりだものね。もういろんなことよくよさないわ。

まゆみ

本当によかったね。お姉ちゃんも大喜びだと思うわ。早く知らせてあげてよ。わたしも、お母さんのこと一番気になっていたんだけど、これで安心ね。

ナレーション

母は、うれしそうに受話器を取り上げました。

母

もしもし？ わたし、やっと信仰を持つ決心をしたんだよ。やっとこさ、お前たちと一緒に信仰を持つことができたよ。お父さんのこともイエス様にお任せしようと決心したら、すっきりしちゃった。子供たちにもよろしくね。まゆみに代わるね。

ナレーション

姉は、ことのほか喜んでいました。自分から始まった信仰が、わたしに、そして今、母にまで及んだことを心から神様に感謝していました。

姉

(フィルター音)まゆみ。お母さん、こんなに早く救われるとは思わなかったわ。だって、30年も生長の家の信者だったんだものね。よく信じることができたねえ。荒木先生によろしく言っておいて。

まゆみ

時々、まだ変なこと言うけど、確かにお母さん、変わったわよ。本当に安心して

いるんですもの。やっと心に平安が与えられたんだと思うわ。

ナレーション

こうして母は、半年遅れで恵みのバプテスマを受けることができました。母のバプテスマのあかしを聞きながら、長い困難な生涯で、今やっと母は平安を見いだしたのだと、しみじみ感じました。

まゆみモノローグ

お母さん、おめでとう。

ナレーション

けれどもその母は、2年余りの信仰生活ののち、突然、天に召されました。その悲しみの時を通り抜けて、今静かに考えますと、母はいろいろと苦しいことの多かった地上から、イエス様のいる、死も涙もない天国に移されて、わたしたちを待っているんだと思います。残されたわたしたちは、主イエス様に導かれて、母の分も、堅く信仰に立って歩んでいこうと思うんです。苦しみや困難がこれからもあるでしょう。でも恐れません。イエス様はいつも、わたしの“脱出の道”、わたしの救い、わたしの主でいらっしゃるのですから。

< 完 >